

## 旭川セミナー講評（閉会のあいさつ）

国際啄木学会副会長 池田 功

国際啄木学会はこれまで北海道で4回の大会やセミナーを行ってきました。函館2回、そして釧路と札幌がそれぞれ1回ずつです。札幌の時は小樽に文学散歩をしました。いずれも啄木と縁の深い街です。ところが今回の旭川は啄木がわずか15時間ほどしかいなかった街です。その地に昨年は駅に啄木像が建てられ、今年はセミナーが開催されます。これも旭川啄木会会長の石山さん、事務局長の石川さんをはじめとします旭川啄木会、そして旭川市民の皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

さて、それでは今回のセミナーの講評をさせていただきます。まず旭川の出身であり、旭川駅の啄木像建立の立て役者でもあります、近藤典彦元会長の「詩人の天降りー啄木の北海道漂泊」のご講演についてです。一般の市民の方が大変多くおられるためか、分かり易いご講演であったと思います。

26年の啄木の生涯のうち文学的な活動はわずか10年ですが、その前半の啄木は傲慢で天才主義者で生活を顧みず文学がすべての、ある意味で嫌な存在でした。それがあつた時から反転します。まさに天降りであり地上の視点を獲得していきます。そして今日の私達が良く知っている、歌集の『一握の砂』や「時代閉塞の現状」などの歌集や文章を残すことができるようになりました。

それではその転回点は一体どこからなのか。近藤先生は、天才主義は浜民小学校の代用教員時代の末期から解体が始まり、そして北海道の小樽時代にほとんど解体されるとしました。そういう意味で啄木における北海道での1年間の漂泊生活は、大きな意味があつたということなのです。その後上京して妻節子の家出事件や大逆事件に遭遇することによって生活者としての視点や現実の社会の不条理や強権のことをきちんと問題視することができるようになりました。

このような啄木の天才主義の解体による天降り、そしてその後の地上の視点を獲得により社会の不条理を自らの問題とすることができるように変貌していく、その転回点に北海道の漂泊があつたということ、近藤先生のご講演できちんと理解することができたのは、大変有意義なものでした。ただ、残念なのは講演時間が短かったせい、資料に記された国木田独歩のことや『一握の砂』の「忘れがたき人人」のことにまで触れられることがなかったことでした。これらのことはまた、いずれかの機会に伺いたいと思います。

次に、立命館大学大学院生、深町博史さんの「石川啄木と夏目漱石ー明治末期の青年と社会」の研究発表です。さすが瀧本和成先生の教え子だけあって、きちんと先行研究を踏まえ、同時代の詳細な資料を踏まえた興味深い発表でした。啄木の「雲は天才である」と夏目漱石の「野分」の青年を比較した研究はこれまでの研究史にはありません。深町さんの結論は、啄木の「雲は天才である」は教育をする側の人を描き、「野分」は学問をする側の人を描いているという相違はあるが、しかし、ともにこれから社会を作り

担っていくより若い世代への期待を込めているということでは共通しているということです。私もその通りであると思います。深町さん、これを論文にして国際啄木学会「若手研究者助成」の論文部門をねらってください。国際啄木学会も啄木や漱石と同じように、若い世代に期待して色々な援助をしています。

最後に、旭川啄木会、日本現代詩人会会員、東延江さんの「旭川と石川啄木ー松岡落堂・啄木会・宮越屋などー」です。まず何と言っても15、6頁にもなる資料が嬉しいですね。明治40年代の駅や通りの写真、人口と世帯数、啄木が一泊した宮越屋の写真などが豊富に入った資料です。これを貰えただけでも今回のセミナーに参加して良かったと思った人もいないかと思うくらいです。東さんの発表は大きく3つありました。1つは啄木が15時間ほど過ごした明治41年1月20日頃の旭川のことを色々な資料を通して説明して下さったこと、2つ目は函館の苜蓿社で啄木と知り合いになった松岡落堂のことです。落堂はその後旭川で生活しましたが、その足取りについて説明して下さったことです。そして3つ目は大正11、12年頃に既に第一次旭川啄木会が誕生して活躍していたということです。いずれも興味深いお話しであり、東さんには短い研究発表よりも講演としてもっと長く話していただきたかったと思ったほどでした。

以上のように本日の講評を致しましたが、とにかく会場には180名近い方に来ていただきましたし、また発表の内容も地元に着したことも多く充実しておりまして、今回の旭川セミナーは大成功であったと言えると思います。

もっともまだ明日は文学散歩があります。こちらの方も意義のある文学散歩として、無事に終了させたいと思います。また本年9月7、8日と釧路で大会が開催されます。北海道支部長であり、大会実行委員長である北畠立朴さんをはじめとします、釧路の皆さんどうぞ準備の方よろしくお願い致します。

会場には多くの旭川、そして北海道の方が来ておられますが、釧路の大会にもご参加いただければ幸いに思います。また国際啄木学会では一般の方でも年会費の5000円を払っていただければ入会することができます。来年5月には大阪の堺市で大会を、また秋には台湾でセミナーを行うことになっています。私たちと一緒に啄木を勉強してみませんか。もしその気になられましたら、HPに入会のことなど色々掲載されていますのでそちらをご覧くださいませ。

以上、簡単ですが、閉会の挨拶をさせていただきます。有り難うございました。

以上